

平成25年度道徳教育に関わる現状と課題

部長 本間 辰彦

1 道徳教育の動向

各地区では昨年度同様、「自己の生き方」を考える道徳授業の在り方について研修を積み重ねている。各地区の概要を紹介する。

【上越地区】

糸魚川市では道徳の時間に効果的な方法として役割演技に注目し、補充、深化、統合を図っている。設定場面が身近であればあるほど効果があるとの報告が多い。**妙高市**では「魅力的な資料で道徳的価値を実感させる道徳授業の工夫」を主題に研究を進めている。資料として、①感性に訴え感動を覚えるもの、②人間の弱さもろさに向き合い生きる喜びや勇気を与えられるもの、③悩みや葛藤など心の揺れのあるもの、④人間関係の理解など課題について深く考えることができるもの、が有効と考えている。**上越市**では「かかわる・語る・見つめる」と、三段階の学習活動を意識した展開を工夫した。

【中越地区】

魚沼市では豊かな自然や伝統芸能・文化的遺産など「ふるさと力」を生かした指導を通して郷土への愛着と誇りをもたせ豊かな心を育む実践を重ねている。**見附市**は教材「みつけ塾」が市内小中学生に配布された。「ふるさと見附を愛する子ども」「世に役に立つことを喜びとする子ども」の育成に寄与するものである。**小千谷市**では「おぢやっ子教育プラン」を策定し、「互いに認め合い励まし合う活動の充実」「挨拶や言葉づかいなど互いの心を温かくする活動」などの取り組みを進めている。**燕西蒲原郡**では「オープンエンド・クローズエンド」の授業を効果的に組み合わせ、他教科とのつながりを研究している。**三条市**は「モラルジレンマ資料」の実践活用を、**十日町・中魚沼郡**はPISA型の道徳授業を展開している。

【下越地区】

新発田市では、①差別に気付かせるための手立て、②被差別者に共感させ、差別の不当性を認識させる手立て、③自己を見つめさせるための手立て、を講じて「生きるⅡ」の「このままではいけない」の授業を提案した。**五泉市**では構成的グループエンカウンター講習会で、燕市内全小学校で実施している「脳活」が披露された。そのほか**村上市・阿賀野市・佐渡市・東蒲原郡**は講演会、授業研究を1回ずつ開催している。

【新潟市】

新潟市は研究主題を「自己を見つめ、よりよい生き方を目指す子ども」と掲げ、道徳の時間に子どもたちが3つのもの（①資料における主人公、②友だちの見方・考え方、③新しく見えてきた自分の姿）に出会うとしている。これらの実現に向けて、講演会・実践報告会・ブロック別の研究授業（**五十嵐小・東中野山小**）を行った。「役割演技」と「家族からの手紙について」効果を検証した。

2 道徳教育の課題

道徳教育をともに研究する仲間のネットワークを生かしさらに魅力的な道徳授業をつくっていくこと。また、家庭・地域社会が道徳教育に果たす役割を充分認識し、協力体制と整えるとともに連携の在り方を模索していくこと、が必要である。